

労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

<p>①大竹文雄著『競争と公平感』中央公論新社(xii+245頁,新書判) 政府も市場も失敗するが、先進諸国の中で日本では政府・市場とも信頼度は低いという。世襲政治家が首相を務め、最近の首相4人がいずれも1年以内に辞任に追い込まれた国では、むべなるかなである。著者は市場競争のメリットを強調するとともに、政府を活用した公平で豊かな社会実現のヒントも提供している。</p>	<p>⑥山内乾史他編著『学歴と就労の比較教育社会学』学文社(vii+195頁,B6判) 欧米や発展途上国では、低所得が教育の不足をもたらすが、日本では高学歴者の中からも不安定・低賃金者が出現し、若者も使い捨てられているという。本書は、英・北欧・エジプト・豪州の教育と職業との関係を分析、近年の日本社会の最大の懸案である格差社会論に、学力論という教育社会学の観点から切り込んでいる。</p>
<p>②河野順一他著『労働基準監督機関の役割と是正勧告』中央経済社(554頁,A5判) 労働基準監督機関による是正勧告の重点項目は、残業代不払問題であるという。「残業代請求パブ」を懸念する経営コンサルタントの著者達は、経営者に判例法理に基づいた毅然とした態度を要求、裁判例・法律の涉猟により、現状と問題点、是正勧告の法的性格を明らかにし、経営実務の指針となることを目指している。</p>	<p>⑦鶴光太郎他編著『労働時間改革』日本評論社(xvi+184頁,A5判) 長時間労働による過労死・メンタルヘルス不全が頻発しているが、日本でもようやく勤務間インターバル規制が不十分なから導入されるようになってきた。さらに現場でも、WLBやファミフレ等労働時間への関心が高まっている。RIETI主催の政策シンポジウム「労働時間改革」での発表論文と追加論文で構成されている。</p>
<p>③武田圭太著『採用と定着』白桃書房(vi+254頁,A5判) 来年4月採用の新規学卒一括採用活動はすでに終息期なのだろうか。本書は、採用をめぐる諸問題を人と組織の双方の視点から検討。採用においては、面接者の仕事経験という偶然性に左右されると著者は指摘。仕事の世界に巣立つ若い人たちが、偶然性の非条理におしつぶされず元気ににはばたくことを願うばかりである。</p>	<p>⑧三井正信著『現代雇用社会と労働契約法』成文堂(ix+258頁,A5判) 労働契約法が施行されて2年余、本文19条の小ぶりな法は、期待された効果を発揮できているのだろうか。本書は、既発表の労働契約法関連論文に加筆・修正、一書にまとめたもの。労働契約法の意義・問題点、契約法に基づく就業規則の拘束力・不利益変更問題の検討、法改正に向けた立法論の提示等を内容としている。</p>
<p>④駒村康平編『最低所得保障』岩波書店(viii+239+3頁,B6判) 最低所得保障制度としての機能をもつ生活保護、社会手当、失業扶助、最低賃金、雇用保険、最低保障年金を、整合性・包括性の視点から分析。現在脚光を浴びているベーシック・インカム論等に対抗、現実的な提言も展開。駒村教授の問題提起の下、若き研究者が制度毎に、歴史的経緯にも目配りを払いつつ議論している。</p>	<p>⑨唐津博著『労働契約と就業規則の法理論』日本評論社(xiii+381頁,A5判) 2009年の日本労働法学会での研究報告のために、1987年の学会発表以来の就業規則に関する論文を整理・編集。労働契約の法理論と就業規則の法理論、就業規則と労働契約法の関係、の3つの内容で構成されている。労働契約法についての出版物が引きも切らないが、労働法学者にとって魅力に溢れたテーマなのであろうか。</p>
<p>⑤苅谷剛彦他編『大卒就職の社会学』東洋館出版(x+230頁,A5判) 若手研究者等の実証研究の場である「就職研」の活動成果。1980年代末から2000年代初頭にかけての大卒就職の変容をアンケート調査等のデータに基づき描出。大学生が同年代の半分を占めるまでにいたった教育の現場と、非正規が3分の1を占める仕事の世界の結節点である大卒就職の実態の解明は、焦眉の課題である。</p>	<p>⑩尹敬勲著『韓国経済と労使関係』学術出版会(331頁,A5判) GDPに対する五大財閥の経済的貢献が40%を超えるとされる韓国では、財閥企業での労使対決による経済的損失を最小限におさえることは国家的課題である。本書は現代財閥を事例として、労使関係の歴史的展開、学歴による賃金格差と能力開発機会の不平等性を分析、学歴重視社会の中での現代財閥の労使関係を評述。</p>

主な受け入れ図書

(2010年4月—5月労働図書館受け入れ)

①土田とも子編『全所共同研究の40年 資料編』東京大学社会科学研究所(133頁,B5判)	③菅野和夫著『労働法 第9版』弘文堂(xx+837頁,A5判)
②高橋直樹他編『構造と主体』東京大学社会科学研究所(110頁,B5判)	④水町勇一郎著『労働法 第3版』有斐閣(xvii+505頁,A5判)
③浜辺陽一郎著『民法大改正』日本経済新聞出版社(306頁,B6判)	⑤土田道夫他編著『ケースブック労働法 第6版』弘文堂(xx+601頁,A5判)
④依田典義著『行動経済学』中央公論新社(iv+242頁,新書判)	⑥石山貴章著『知的障害者の就労に関する雇用者の問題意識の構造』風間書房(viii+220頁,A5判)
⑤リチャード・セイラー他著『実践行動経済学』日経BP社(415頁,B6判)	⑦佐藤孝治著『「就活」廃止論』PHP研究所(240頁,新書判)
⑥清水耕一編著『地域統合』岡山大学社会文化科学研究科(iv+233頁,A5判)	⑧稲泉連著『仕事漂流』プレジデント社(357頁,B6判)
⑦岡沢憲実他編著『少子化政策の新しい挑戦』中央法規出版(287頁,A5判)	⑨牧口晴一他著『事業継承に活かす従業員持株会の法務・税務』中央経済社(2+8+439頁,A5判)
⑧尾高煌之助他編『イノベーションの創出』有斐閣(14+259頁,A5判)	⑩青木宏之他編『激動期の労使関係』東京大学社会科学研究所(155頁,B5判)
⑨山下洋史編著『日本人の心理・行動モデルと日本企業のクオリティ』白桃書房(x+222頁,A5判)	⑪金杉秀信著『金杉秀信オーラルヒストリー』慶應義塾大学出版会(365頁,B6判)
⑩八代充史他著『はじめての人事管理』泉文堂(viii+210頁,B6判)	⑫連合大阪20周年記念誌編集委員会編『連合大阪20年史』連合大阪(134頁,A4判)
⑪河合克彦他著『一次評価者のための目標管理入門』日本経済新聞出版社(228頁,A5判)	⑬松井保彦著『合同労組運動の検証』フクイン(xxiv+241頁,B6判)
⑫学習院大学経済経営研究所編『ワーク・ライフ・バランス推進マニュアル』第一法規(151頁,A5判)	⑭有賀夏紀他編『アメリカ・ジェンダー史研究入門』青木書店(vi+328+18頁,A5判)
⑬日本経団連事業サービス人事賃金センター編『役割・貢献度賃金』日本経団連出版(170頁,A5判)	⑮小野公一著『働く人々のキャリア発達と生きがい』ゆまに書房(xii+262頁,A5判)
⑭現代産業社会と人間関係研究班編著『現代社会における人間関係とリスク』関西大学経済・政治研究所(137頁,B5判)	⑯石井まこと他編著『現代労働問題分析』法律文化社(ix+300頁,A5判)
⑮市民参加研究班編『ソーシャル・キャピタルと市民参加』関西大学経済・政治研究所(236頁,A5判)	⑰齋藤義博著『経済学と労働経済学』創成社(viii+305頁,A5判)
⑯リチャード・ウィルキンソン他著『平等社会』東洋経済新報社(xx+313+32頁,B6判)	⑱岩間夏樹著『若者の働く意識はなぜ変わったのか』ミネルヴァ書房(xii+240頁,B6判)
⑰宮島洋他編『社会サービスと地域』東洋館出版(x+254頁,A5判)	⑲間宮理沙著『内定取消!』日経BP社(220頁,B6判)
⑱国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障の計量モデル分析』東洋館出版(xvi+358頁,A5判)	⑳青木宏之編『現場管理の世界』東京大学社会科学研究所(132頁,B5判)
⑲日本家政学生活会生活経営学部編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店(vii+172頁,A5判)	㉑進士五十八著『グリーン・エコライフ』小学館(222頁,B6判)
⑳野川忍著『労働法 新訂』商事法務(20+490頁,A5判)	㉒石田光男他編著『GMの経験』中央経済社(5+315頁,A5判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書108,000冊、洋書27,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています